

音楽科指導の重点

教科指導の重点	自ら学び自ら考える力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす指導を充実する。	
一人一人に基礎的・基本的な内容が確実に身に付くよう指導目標と評価規準を明確にし、指導内容の重点化や教材の精選を図る。	一人一人に主体的に学ぶ力が身に付くよう、学習過程や評価を工夫し、個の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実に努める	学習の充実に必要な規律や学習姿勢が身に付くよう指導し学習環境を工夫するとともに、学ぶ意欲の高い学習集団を育成する。

教科の目標【小学校】
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う

教科の目標【中学校】
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

音楽科指導の重点	音楽活動の基礎的な能力を培い（伸ばし）、主体的で創造的な学習活動を充実する。 [培い - 小学校、伸ばし - 中学校]	
----------	---	--

- (1) 各学年の内容を適切に位置付けた年間指導計画を作成する。
 - ・歌唱、器楽、創作及び鑑賞の指導について、特定の活動のみに偏らないようにするとともに、相互の関連を図った指導計画を作成する。
 - ・児童生徒の実態や発達段階を十分に考慮した教材選択や教材開発をする。
 - ・中学校における和楽器の学習では、3年間を通じて1種類以上の和楽器を用いることができるよう、学校や生徒の実態に即して、楽器の選択や整備、教材開発外部講師の活用を工夫し、指導計画に位置付ける。
 - ・選択教科としての「音楽」については、生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるよう、幅広い内容を設定した指導計画を作成する。
- (2) 題材の指導目標と評価規準を明確にし、評価の計画を位置付けた題材指導計画を作成する。
 - ・題材の指導目標と題材の評価規準を踏まえ、単位時間におけるねらい及び具体的評価規準を明確にする。
 - ・具体的評価規準や評価方法等を位置付けた（単位時間ごとに1～2）題材指導計画を作成する。

- (1) 主体的で創造的な学習活動を充実することができるよう学習過程を工夫する。
 - ・グループ・パート練習などの小集団活動や外部講師を活用した学習活動を、ねらいを達成するための活動として学習過程に位置付ける。
 - ・音楽表現に対する願いをもち、楽曲のイメージを深める場を効果的に設定する。
- (2) 評価を生かし、音楽活動への意欲や表現の技能等を高める指導を工夫する。
 - ・単位時間における具体的評価規準から児童生徒の学習状況を適切に把握することができるよう、観察や学習カード等の評価方法を工夫する。
 - ・こと判断される児童生徒への指導を最も大切にしたい指導と評価を充実する。
 - ・一人一人の技能の習熟度に応じた指導の在り方等、きめ細かな指導について、実践を通して明らかにする。
 - ・声や楽器の音色づくりや聴くことを大切にしたい表現活動、表現の向上につなげる鑑賞活動の充実など、表現と鑑賞との関連を図る学習指導の工夫をする。

- (1) 児童生徒の音楽的感性に訴える学習環境づくりに努める。
 - ・静的な学習環境を整え、「音」に対する感性を育てる工夫をする。
 - ・視聴覚機器や情報機器等の効果的な活用により、音楽的な関心・意欲を喚起する学習環境を工夫する。
 - ・「発声方法」や「パート練習の仕方」など、表現を高めていくための手がかりを示す掲示物を工夫する。
- (2) 仲間とともに、美しい音楽表現を求めていく学習集団を育成する。
 - ・一人一人の表現に対する願いや表現方法などの違いが大切にされ、互いの音楽的なよさが認め合える温かさ、鍛えあふ厳しさのある学習集団を育成する。
 - ・音楽会（合唱祭）やそれに向けての取組（学級活動、児童・生徒会活動、学校行事）において、児童生徒が主体的に練習を進めていくことができるよう、音楽の学習を通して、仲間とともに表現を質的に高めていく学び方を指導する。

<生涯音楽教育を視野に>
 音楽の学び方・楽しみ方・感じ取り方を学ぶ音楽科教育に。教師は、日々自らの資質向上に努め、自分自身も音楽のすばらしさ、喜び、感動を深く経験し続けたい。